

2015鉄道安全報告書



長野電鉄株式会社

この安全報告書は、当社における鉄道輸送の安全の確保のための取り組みや安全の実態をまとめたものです。

安全報告書 目次

1	ごあいさつ	1
2	輸送の安全確保に関する基本指針	2
	(1) 安全基本指針	
	(2) 平成 27 年度 安全目標	
	(3) 平成 27 年度 安全重点施策	
3	安全管理体制と安全マネジメント	3
	(1) 安全管理体制	
	(2) 安全マネジメント	
4	安全確保のための取り組み	3
	(1) 安全への投資	
	(2) 安全設備投資計画の進捗状況	
	(3) 鉄道従事員への教育・訓練等	
	(4) 安全監査（内部監査）	
	(5) ヒヤリハット情報表彰制度の制定	
5	鉄道事故等の発生状況	10
	(1) 鉄道運転事故の発生状況及び再発防止措置	
	(2) 輸送障害の発生状況及び再発防止措置	
	(3) インシデントの発生状況	
	(4) 列車運行を妨げる危険な行為等	
	(5) 行政指導	
6	お客様の声への対応	12
7	お客様・沿線の皆さまへのお願い	14
8	お客様からのご意見の募集	14

1. ごあいさつ

皆さまには日頃より長野電鉄をご利用いただきますとともに、ながでんグループにご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。また、沿線の皆さまには鉄道事業の運営にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、平成 18 年の鉄道事業法改正の一部改正を受け、同年 10 月に安全管理規程を制定し、「安全はすべてに優先する」との基本方針に基づき、輸送の安全の確保に取り組んでまいりました。

平成 26 年度は、安全重点施策として、「安全・快適な輸送サービスの提供」、「ヒヤリハット情報の報告徹底と有効活用」を掲げ、安全風土の確立に向け「安全マネジメント態勢」の構築と継続的取組みの結果、安全目標である「有責事故・インシデントのゼロ」を達成いたしました。

今後も、安全管理体制の継続的な見直しを図り、お客さまに安心してご利用いただけるよう、安全性の向上に取り組んでまいります。

この報告書は、鉄道事業法に基づき、平成 26 年度に実施した鉄道輸送の安全に関する取り組みや鉄道運転事故・輸送障害の状況や設備投資等について、また平成 27 年度の安全に対する計画を報告するものとして作成したものです。本報告書をご一読いただき、忌憚のないご意見やご感想をいただければ幸いです。



長野電鉄株式会社
取締役社長 笠原 甲一

2. 輸送の安全に関する基本指針

当社は、グループ経営理念として「旅客輸送で培った安全・安心ノウハウを活かし、地域の快適な生活に資するサービスを提供します」を提唱しております。鉄道事業部門では、経営方針の基幹となる安全方針、安全行動規範を制定し、役職員へ徹底しております。更に、平成 27 年度の安全目標を新たに定めて、安全の確保と安心の提供に努めてまいります。

(1) 安全基本指針

安全方針

お客様の安全の確保は輸送の生命であり、すべてに優先する。
その安全は従業員一人ひとりが創るもので、規程を遵守し職務を厳正、忠実に遂行することによって支えられている。

私たちは鉄道事業を担う誇りを共に持ち、安全確保のため日頃から危険要素の排除に努め、常に安全意識を高く持ち、お客様の安全、安心確保の責務を誠実に果たし社会に貢献する。

安全行動規範

- ア. 一致協力して輸送の安全の確保に努める。
- イ. 輸送の安全に関する法令及び規程をよく理解するとともに、これを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する。
- ウ. 常に輸送の安全と、お客様の安心に関する状況を理解するよう努める。
- エ. 職務の実施にあたり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑いのある時は最も安全と思われる取り扱いをする。
- オ. 事故、災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとる。
- カ. 情報は洩れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。
- キ. 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する。

(2) 平成 27 年度 安全目標 『責任事故「ゼロ」の継続』

平成 26 年度に引き続き、当社の責任による事故「0 件」、インシデント※1「0 件」を目標に、取り組みます。

※1：インシデントは、事故が発生する恐れがあると認められる事態を指します。

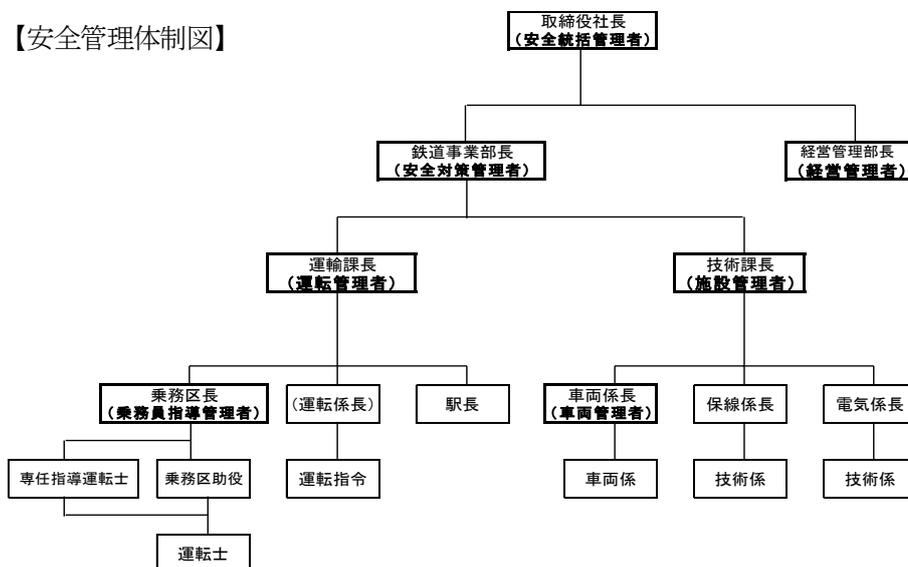
(3) 平成 27 年度 安全重点施策

- ①安全マネジメントの浸透と理解度向上
- ②ヒヤリハット情報の活性化
- ③情報の伝達、コミュニケーションの活性化
- ④安全・安心な鉄道施設の更新と管理

3. 安全管理体制と安全マネジメント

(1) 安全管理体制

当社は、平成 18 年 10 月 1 日の安全管理規程を制定したことにより、社長をトップとする安全管理体制を構築し、各管理者が安全確保の役割を担い、輸送の安全の向上に努めております。



(2) 安全マネジメント

安全統括管理者（社長）を委員長とする鉄道安全対策委員会を、平成 26 年度は 5 回開催しました。委員会では輸送の状況、事故、ヒヤリ・ハットの把握や原因分析、鉄道従事員の勤務状況などについて情報を共有し、事故防止や安全対策について協議するとともに、マネジメントレビューにより問題点や課題を抽出し、次年度の安全重点施策を策定するなど安全管理を実践しております。

また、鉄道事業部門を構成メンバーとする事故防止対策会議を毎月開催し、現場の安全に関する情報を確実に吸い上げ、事故、災害等の原因及び背後要因等の調査、安全にかかる課題・問題点等を調査研究し、事故等の未然防止を図っております。

経営トップや役員が機会あるごとに職場巡視や教育・訓練等へ参加することで、従業員の安全マネジメントの理解や浸透による安全の向上を図っています。

また、現場からのスムーズな情報の伝達や円滑なコミュニケーションの場を設けることで、「事故の芽」の早期発見と対応策の実施など、安全を第一とした安全マネジメント体制の推進に経営トップが主体的に関与しています。



安全統括管理者(社長)による従事員研修での講話

4. 安全確保のための取組み

(1) 安全への投資

鉄道事業にかかわる安全のための投資状況

(単位：百万円)

年度	設備投資			修繕費			合計※2
	施設・設備	車両	計	施設・設備	車両	計	
24 年	298	0.4	298	184	244	428	726
25 年	392	0	392	191	268	459	852
26 年	262	0	262	197	267	464	726

※2：金額単位未満の処理により合計が一致しない場合があります。

(2) 安全設備投資計画の進捗状況

安全設備投資計画に基づき、平成 26 年度も線路、踏切の安全対策を重点的に実施いたしました。
平成 27 年度も積極的に安全投資を推進いたします。

ア. 安全性緊急評価事業の推進

「地方中小鉄軌道事業者の安全対策について」に示された「安全性緊急評価」を平成 15 年度に実施いたしました。その評価に基づき平成 16 年度より順次設備等の改修を実施しております。

平成 26 年度の整備事業等は次のとおりです。

- ・本郷駅～桐原駅間の重軌条化^{※3}
- ・須坂連動装置、電子連動化

※3：重軌条化とはレールを重量あるものに交換し、振動の軽減及び安全性を向上させるものです。

イ. レールの大型化

安全性向上のため順次 50 kgN レール^{※4}に更新しています。平成 26 年度は、本郷駅～桐原駅間の 350m の 37 kg レールを 50 kgN レールに更新しました。これにより 50 kgN レールは全体の 82.1% となりました。

種類別レール敷設率の推移

年度 \ 種類	30kg	37kg	40kgN	50kgN
H23 年	18.4%	6.1%	25.9%	49.6%
H24 年 ^{※5}	3.5%	3.9%	12.2%	80.4%
H25 年	3.5%	3.1%	12.2%	81.2%
H26 年	3.5%	2.2%	12.2%	82.1%
H27 年予定	3.5%	1.1%	12.2%	83.2%

※4：レールは通常 1m 当たりの重量で呼ばれています。長野電鉄で用いられているレールは 30 kg, 37 kg, 40 kg N, 50 kg N レールの 4 種類で、50kgN への交換を進めています。

※5：H24 年度以降の敷設率は、屋代線廃止に伴い、長野線（長野駅～湯田中駅間）の敷設率です。

ウ. PC マクラギ化

平成 18 年度より、木マクラギから締結力が強い PC マクラギへの交換を行っており安全性の向上を図っています。平成 26 年度は、長野線全線に 491 本の PC マクラギを敷設いたしました。

平成 27 年度以降も、PC マクラギ化を進めてまいります。

エ. 法面補強

降雨による状態変化、経年による表面風化などによる落石や崩落等を防止するため、沿線傾斜地の法面補強工事を実施いたしました。

今後も継続的に対策を行い、安全・安定輸送を確保してまいります。



木マクラギの PC マクラギ化



自然斜面防護工(都住駅～桜沢駅間)

オ. 踏切の安全対策

踏切道での安全確保のため、第 4 種踏切道（警報機・遮断機のない踏切）の廃止や、第 1 種踏切道（警報機・遮断機とも有する踏切）への格上げに取り組んでおります。

平成 24 年 4 月の屋代線廃止以降に踏切数及び種類に変動は無く、平成 27 年 3 月 31 日現在、踏切の総数は 123 ケ所となっております。

踏切保安設備改善の推移

種類 年度	第 1 種 (警報機・遮断機とも有り)	第 3 種 (警報機有り・遮断機無し)	第 4 種 (警報機・遮断機とも無し)	計
22 年度	158	1	60	219
23 年度	157	1	60	218
24 年度	87	0	36	123
25 年度	87	0	36	123
26 年度	87	0	36	123

カ. 連動装置更新

停車駅構内では多くの線路が集中、線路が分岐しているため列車運転に必要なすべてのルートが構成できるように造られています。それらを動作させる場合、信号機や転てつ装置、合図や標識などを正確に、かつ安全に動作させる制御装置が必要となり、その装置の総称を連動装置と呼んでいます。これまでの連動装置は継電器（機械式リレーによる組み合わせ）で制御していましたが、この度、電子（ソフトウェアによる模擬リレーの組み合わせ）による制御方式に更新いたしました。これにより連動装置自体の信頼性及び操作性が向上し、より一層の安全の確保が図られました。

平成 26 年度は下記の設備を新設及び更新いたしました。

- ・須坂停車場第 1 種継電連動装置を第 1 種電子連動装置に更新
- ・須坂停車場連動制御盤を 3 番線ホーム運転室から運転指令室内に移設
- ・須坂合同事務所内機械室内に制御用電子連動架・保守モニター（MTC）の新設
- ・同機械室内に電源装置、制御装置の新設



【更新前 須坂運転室】

連動制御盤



【更新後 運転指令室】



須坂機械室内 電子連動架・保守モニター



須坂機械室内 電子連動制御器

キ. 車両の設備機器更新と新設

1000系車両「ゆけむり」の放送装置の更新と自動放送装置及び車内案内表示装置の新設により、安定した聞き取りやすい放送と、次停車駅などの情報を確実にお伝えできるようになりました。なお、自動放送及び車内案内表示は和文と英文でご案内しております。



【更新前】

放送装置



【更新後】



自動放送装置【新設】



車内案内表示装置【新設】

ク. 地下隧道排水ポンプ更新

前年度、善光寺下駅の隧道排水ポンプ1台を更新しましたが、平成26年度は、権堂駅の老朽化した排水ポンプ1台及び付帯設備を更新いたしました。今後も計画的に更新を進めてまいります。



ポンプ1号機更新



付帯設備更新(仕切弁、逆止弁)

ケ. 信州中野駅バリアフリー化設計

信州中野駅はラッチ外にエスカレーターは設置されているものの、ホームまでの段差解消が図られておらず、車イス使用者等の移動制約者利用に制限がありました。平成27年度に向けて、エレベーターを3基（建物外1基、ラッチ内2基）、多機能トイレ、誘導案内サイン等を設置するバリアフリー化設備整備事業を計画いたしました。

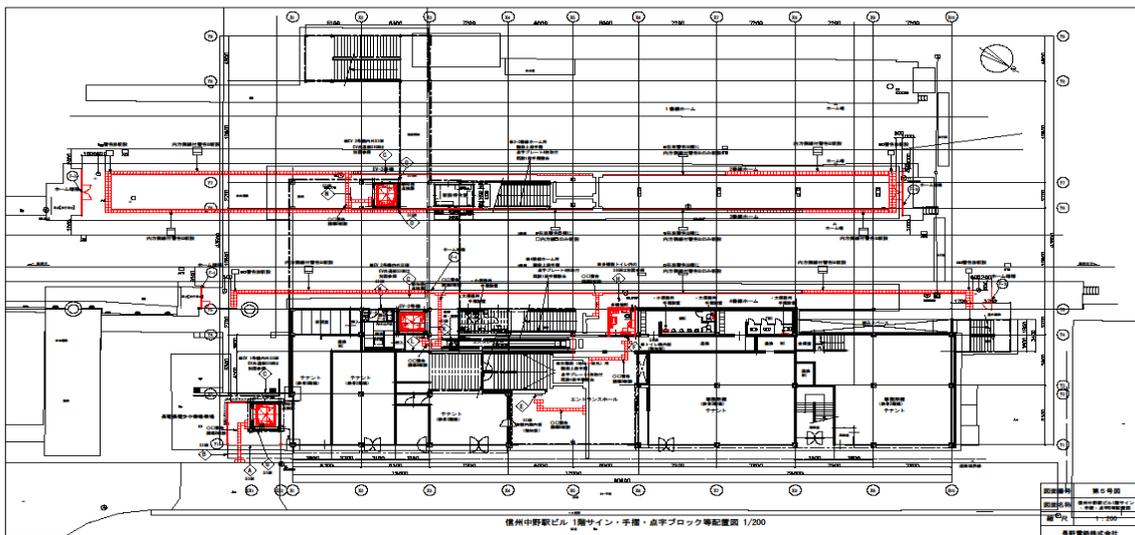
それに伴い、平成26年度は設計業務を行いました。



信州中野駅



駅改札



信州中野駅ビル1階平面図(バリアフリー化設計図)

(3) 鉄道従事員への教育・訓練等

平成26年度は2名の運転士の自社養成を行いました。学科と実技の国家試験合格後、指導運転士の下で約50日の見習い乗務により十分な運転技能の習得及び安全指導を受けたうえで、平成27年1月より営業線で活躍しております。

ア. 乗務員教育

列車運転士及び車掌に対し、安全性の向上・事故防止・接遇向上を中心とした乗務員教育・訓練を定期的（隔月毎・年6回）に実施しました。車両の構造や施設に対する知識の習得をはじめ、異常時での対応、自社及び他社で発生した事故事例等の分析や学習を行い、事故の再発防止対策について知識の習得を図るとともに、実車による訓練を行いました。また、専任指導運転士による列車添乗を毎月実施するなかで、運転士一人ひとりに基本動作の徹底、運転技術の向上の指導を行っております。



乗務員の机上教育



実車による連結訓練

イ. 指令員教育

列車運行の要である運転指令員に対し、安全性の向上・事故防止を中心とした教育・訓練を定期的（机上教育年間4回・実地訓練2回）に実施しました。事故などの異常時における冷静・適確な指示と対応力の向上を訓練するとともに、事故等発生時の情報の分析や再発防止対策の検討を行うことで、列車の安全運行の向上を図っております。また、平成27年2月から須坂駅の信号保安装置が電子連動化され、それに伴い駅扱い連動卓が運転指令室に設置されました。指令員全員が操作訓練を実施し、安全運行に努めております。



指導指令式訓練



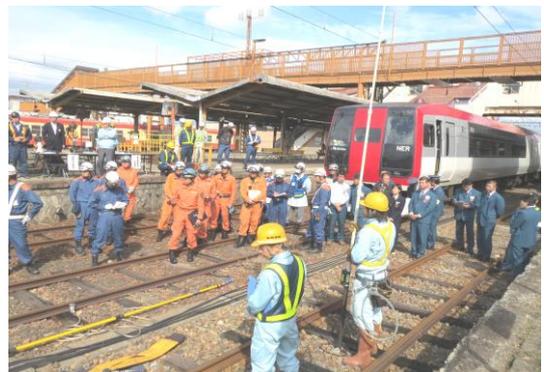
転てつ器手廻し訓練

ウ. 防災訓練

「大きな地震発生により運行中の列車が脱線し負傷者が発生」との想定で、沿線消防機関と連携した総合防災訓練を須坂駅構内において実車を使用し、約80名の参加により実施しました。地震発生後の連絡、消防機関への通報、災害対策本部の立ち上げ、避難誘導、復旧等の訓練により、異常時におけるお客様の安全確保やスムーズな復旧へ向けた知識や技能の向上を図りました。また、毎年地下駅においては、火災を想定した機器の取扱い、避難誘導、通報連絡及び初期消火訓練等を実施し、防災意識の向上を図っております。



列車からの避難誘導訓練



線路の復旧訓練

エ. 鉄道従事員教育

運輸部門従事員を対象に、安全・快適輸送に向けた教育を実施し、安全とともに接遇向上のための知識や技能の習得に努めました。また、職場においては異常時における安全な取扱いを中心に日頃より職場内教育や訓練を実施しております。



鉄道従事員研修



運転取扱有資格者教育

オ. 適性検査

全鉄道従事員を対象に、定期健康診断や夜間従事者検診による身体機能の確認、精神機能検査による適性の確認を実施し、運転関係係員の資質の管理を厳正に行っております。

カ. アルコール呼気検査

電車乗務員に対しては、乗務開始前及び乗務終了後に呼気検査を実施し、酒気帯び状態での乗務の防止を徹底しているほか、体調管理を含めた自己管理の徹底を図っております。

キ. 睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査

睡眠時無呼吸症候群対策として、電車乗務員には簡易診断装置による検査を実施し、睡眠時無呼吸症候群による事故防止に役立てております。

ク. 自動体外式除細動器（AED）講習

駅係員、乗務員等を対象に、自動体外式除細動器の取扱講習を開催し、急病などお客様の異常時には適切な対応ができるよう備えました。

ケ. 安全マネジメント内部監査員研修会

平成 26 年度も、外部団体主催による安全マネジメント内部監査員研修を 3 名が受講し、安全マネジメント態勢の理解を深めるとともに、内部監査に必要な知識を得ることによる内部監査員体制を充実しました。

また、社内での内部監査員学習会により監査員のレベルアップを図りました。



自動体外式除細動器(AED)講習

(4) 安全監査（内部監査）

安全マネジメント態勢が有効に運用されているかを確認し、見直しと継続的改善を図ることを目的とした安全監査（内部監査）の実施により、輸送の安全に係る PDCA サイクルの取り組みを検証し、安全マネジメント態勢の向上に努めております。

平成 26 年度は、安全統括管理者（社長）を含めた社内全部門及び関連会社を対象に 9 の部署において、安全管理体制の構築や改善の取組みが、安全管理規程、その他の安全に関する社内規程や手順に適合しているかどうか、安全管理体制が適切に運営され有効に機能しているかどうかを確認するための、安全監査（内部監査）を内部監査員により実施しました。

内部監査により、安全における不適合事項が顕現した場合には、不適合事項に対する是正・改善措置を各管理者に行い、フォローアップ監査により是正・改善状況の検証を実施するとともに、全監査員による監査の振り返りや、問題点・課題等について意見交換を行い、マネジメントレビューに反映させることにより、更なる安全性の向上や監査員のスキルアップを図っております。

(5) ヒヤリ・ハット情報表彰制度の制定

事故を防止するための有効な方法として、「事故の芽」情報であるヒヤリ・ハット情報の活用が重要とされています。そのために、事故に至らなかった「ヒヤリ」としたり「ハット」した情報をできるだけ多く収集するための仕組みとして、事故の防止に有益なヒヤリ・ハット情報を表彰する制度を平成26年4月1日に制定しました。

この表彰制度ではお客様が安心・快適にご利用頂けるよう、接遇に関する有益なヒヤリ・ハット情報やお客様からお褒めを頂いた事例も表彰することで、職員の接遇への意識向上にも取り組んでいます。

平成26年度は乗務員や駅、技術職員から97件の情報が報告され、その中から計8名が安全統括管理者（社長）より表彰を受けました。今後もヒヤリ・ハット情報の活用により、お客様の安全・安心の向上に努めてまいります。



安全統括管理者(社長)より表彰を受ける受賞者

5. 鉄道運転事故等^{※6}の発生状況

平成26年度には、鉄道運転事故が1件、輸送障害が8件発生いたしました。

※6：鉄道運転事故等の種類につきましては、国土交通省の下記ホームページに用語の解説がございますのでご覧ください。

<http://www.mlit.go.jp/tetudo/anzen/anzenjouho/anzen08.pdf>

(1) 鉄道運転事故の発生状況及び再発防止措置

平成26年度の鉄道運転事故は、踏切障害事故が1件発生しました。発生した踏切障害事故は第4種踏切（警報機・遮断機のない踏切）での自動車と列車の衝突事故でした。自動車の乗員2名が軽傷を負いました。

今後も、春と秋に実施されています全国交通安全運動を利用しての広報活動により踏切事故の防止を推進するとともに、警報機・遮断機のない第4種踏切を減らすためにも、引き続き、踏切の統廃合に向け関係者と協議を進めてまいります。

下の表は、最近5年間に発生した鉄道運転事故件数の推移です。

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
列車衝突事故	0	0	0	0	0
列車脱線事故	0	0	0	0	0
列車火災事故	0	0	0	0	0
踏切障害事故	3 (2)	4	0	1	1
人身障害事故	1	0	1	0	0
鉄道物損事故	0	0	0	0	0
合計	4 (2)	4	1	1	1

※平成24年度以降は屋代線廃線に伴い減少傾向にあります。

()内は屋代線で発生した件数を表しています。

(2) 輸送障害の発生状況及び再発防止措置

平成 26 年度の輸送障害（列車の運休や 30 分以上の遅れが発生した事例）は 8 件発生しました。そのうち CTC（列車集中制御装置）の故障による保安装置故障が 1 件、車両の故障が 4 件、踏切での農業用軽車両の脱輪による列車障害が 1 件、地震による自然災害が 1 件、電力会社の停電によるものが 1 件発生しました。11 月 22 日の長野県北部を震源とする地震発生時には、直ちに運行中の全列車を停車し、施設の点検により列車の運休が発生しましたが、大きな被害はありませんでした。

保安装置故障と車両故障については、その原因の大半が経年劣化によるものでした。定期検査時の入念な検査や部品の更新により再発防止を図るとともに、計画的に機器や車両の更新を進めてまいります。

下の表は、最近 5 年間に発生した輸送障害の発生件数の推移です。

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
車両衝突事故	0	0	0	0	0
車両脱線事故	0	0	0	0	0
車両火災事故	0	0	0	0	0
線路故障	0	0	0	0	0
保安装置故障	3 (1)	2	0	0	1
電力設備故障	0	1 (1)	0	0	0
車両故障	5 (2)	8 (2)	4	4	4
列車障害	0	0	0	0	1
自然災害	3	1	1	2	1
その他 ^{※7}	2 (2)	7 (4)	3	0	1
合計	13 (5)	19 (7)	8	6	8

※7：その他には、倒木、動物等による障害、自殺、電力会社の停電が含まれております。

平成 24 年度以降は屋代線廃線に伴い減少傾向にあります。

() 内は屋代線で発生した件数を表しています。

(3) インシデントの発生状況

平成 25 年度に引き続き、平成 26 年度においてもインシデントの発生はありませんでした。今後も、過去の事例を教訓として、事故の発生の恐れがあるインシデントの防止に努めてまいります。

下の表は、最近 5 年間に発生したインシデントの発生件数の推移です。

	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
発生件数	1	1	0	0	0
発生内容	車両障害	踏切無警報 ^{※8}			

※8：踏切無警報とは踏切遮断機が下りていないにもかかわらず列車が通過したことです。

(4) 列車運行を妨げる危険な行為等

列車の運行を妨害する行為には、線路への置石や物の放置、列車への投石、踏切の非常報知ボタンの乱用、踏切遮断桿の折損、車両の破損や落書き等があります。このような行為は、列車の運行の妨げになることはもちろん、列車に乗車中のお客さまが怪我をされることもある非常に危険な行為で、列車往来危険罪、器物損壊罪などの犯罪行為となります。

平成 26 年度の列車妨害は 12 件であり、その内置石は 7 件（平成 25 年度 6 件）、非常報知ボタンの乱用が 4 件（平成 25 年度 7 件）、列車への物の投げつけが 1 件（平成 25 年度 0 件）発生しています。遊び半分による児童のいたずらによるものが多く発生していることから、今後も、交通安全運動等における広報活動や運輸局、鉄道警察隊と連携により防止に取り組んでまいります。



踏切事故防止推進活動(チラシ配布)



全国交通安全運動ヘッドマーク掲出

(5) 行政指導

平成 26 年度は、国土交通省からの行政指導等は受けておりません。

6. お客様の声への対応

(1) ダイヤ改正

平成 27 年 3 月 14 日の北陸新幹線金沢延伸による JR ダイヤ改正に合わせて、当社でもダイヤ改正を実施いたしました。主な改正要旨は以下のとおりです。

ア. 観光のお客様へ沿線案内や地元産食材を使った軽食・飲物等の車内販売による観光案内列車「特急ゆけむり～のんびり号～」を連休や観光シーズンに合わせ不定期での運行をします。

イ. 特急列車と北陸新幹線の接続時間を 15 分～20 分台に設定しました。

ウ. 湯田中渋温泉郷を利用するお客様の多い時間帯に特急列車を設定しました。

エ. 午前の信州中野駅～湯田中駅間の列車を 1 往復の増発しました。

オ. 須坂駅の発番線を長野行 1・2 番線、信州中野行、湯田中行 3・4 番線に変更し分かりやすくしました。

(2) 善光寺下駅地下通路の壁面改修

善光寺下駅では、平成 27 年 4 月 5 日からの善光寺御開帳に向け、地下通路の壁面を長野市の岡学園トータルデザインアカデミーの生徒さまにより沿線の風景を版画風に表現したデザイン性のある壁画となりました。それまでの暗かった地下通路が明るく楽しい通路に生まれ変わり、昨年設置しました化粧灯具と合わせ、より善光寺の最寄駅らしさを演出しており、毎日ご利用頂いているお客様はもとより御開帳で訪れた観光のお客様からも好評を頂きました。

また、今回の壁面改修に合わせてトイレ男女別に改修し、より快適にご利用いただけるようになりました。



改札から地下通路壁画



改修前トイレ入口と内部



改修後トイレ入口と内部

(3) 長野駅コンコース照明の LED 化

平成 27 年 4 月に長野駅コンコースの照明をお客様の要望や善光寺御開帳に合わせ LED 化し、省電力化と照度アップを図り、明るい駅へ改修しました。



改修前のコンコース



明るくなったコンコース

(4) 制服のデザイン一新

平成 27 年 4 月 1 日から乗務員や駅員の制服一新しました。
明るいグレーにエンジをポイントとした長電カラーによる明るいイメージの制服となりました。
制服とともに明るい鉄道をめざし取り組んでまいります。



新制服(女性)



新制服(男性)

(5) 地下駅防犯カメラの設置

平成 26 年 12 月に地下 4 駅（長野駅、市役所前駅、権堂駅、善光寺下駅）に高画質・高音質の最新式防犯カメラを設置しました。ホームでのお客様の状況や、事件・事故等発生時でのスムーズな対応、犯罪の抑止などお客様が安全に、そして安心して駅施設や電車をご利用頂けるよう活用してまいります。また、今後も計画的に他の駅への設置を進めてまいります。



防犯カメラ(権堂駅)



防犯カメラ画像(権堂駅)

7. お客さま・沿線の皆さまへのお願い

(1) ホームにおける安全確保

ホーム上を走ったり、ホーム下を覗きこむといった行為は、ホーム下への転落、列車との接触の恐れがある危険な行為です。ホームでは白線又は黄色線の内側でお待ちください。

また、ホームを歩きながらのスマホや携帯電話のご使用は、転倒・転落事故、列車や他のお客さまとの接触事故などの恐れがあり大変危険ですでお控えください。

(2) 線路に接近しての作業

沿線住民の皆様が線路付近で草刈や剪定作業をされる場合、うっかり線路内に入ってしまうと列車との接触事故につながる危険性があります。また、線路に入らなくても線路に接近しているときは、運転士が危険を感じて列車を停止させる場合もありますので、線路に接近して作業をされるときは、作業を行う前に作業箇所や作業内容等を最寄駅へ連絡していただき、安全な作業を行っていただくようお願いいたします。

(3) 安全確保のための作業

鉄道の安全を支えていくには、日常のメンテナンスが不可欠であり、夜間に作業を行うことがあります。沿線の皆さまには、ご迷惑をお掛けいたしますが、鉄道の安全確保に欠かせない作業でありますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

(4) 列車妨害などの危険な行為

列車に石を投げたり、線路に石を置いたり、いたずらで踏切の非常報知ボタンを押して列車を止めたりするような行為は犯罪となります。このような行為は脱線事故や列車のお客さまがけがをするなど大変危険な行為です。また、線路に入ること、列車との接触事故につながる危険もありますので絶対にしないでください。このような行為を見かけたときは、お近くの駅係員や警察にご連絡いただきますようお願いいたします。

(5) 踏切での一旦停止

近年、全国的にヘッドホンを着用していたために列車の接近に気付かず列車と衝突してしまう事故が発生しております。悲惨な踏切障害事故をなくすためにも、踏切を通行するときは、必ず一旦止まって列車が来ないことを確認して渡っていただくようお願いいたします。

8. お客さまからのご意見の募集

安全報告書や、当社の安全への取り組みに対するご意見・ご要望につきましては、下記までお寄せください。

〒380-0833 長野市権堂町 2201 番地

長野電鉄株式会社 お客様係

TEL 026-232-8121 FAX 026-232-8125

(月～金曜日 9:00～17:30 年末年始を除く)

E-mail info@nagaden-net.co.jp

ホームページ <http://www.nagaden-net.co.jp/>